

宇土の歴史・文化を育んだ

轟泉水道

轟泉水道取水口

令和元年7月29日(月)～9月14日(土)

開館時間：9時30分～16時30分

休館日：日曜・祝日

観覧料：無料

主催：株式会社肥後銀行
公益財団法人肥後の水とみどりの愛護基金

協力：宇土市教育委員会、公益財団法人永青文庫

 肥後の里山ギャラリー

〒860-0017 熊本市中央区練兵町1番地 (肥後銀行本店1階)

電話：096-326-7800 FAX：096-326-7755

<http://www.mizutomidori.jp/gallery/>



宇土の歴史・文化を育んだ轟泉水道

～国内現役最古の上水道～

正保3年(1646)、熊本藩2代藩主細川光尚は、叔父細川立孝の子・宮松に宇土郡と益城郡のうち3万石を分け与えました。同年8月に將軍徳川家光に謁見した宮松は、行孝と改名し宇土支藩の初代藩主に就きます。翌年9月頃には行孝の宇土御屋敷(陣屋)が完成して宇土の城下町も整備されていきました。しかし、この土地は地下水に恵まれず、水質も悪かったため、行孝は古くから名水として知られた轟水源から水道を引くことを計画しました。水源から宇土御屋敷に至る28町50間(約3150m)に円筒形の瓦質管を敷設し、その中を自然流水させることにより飲料水を確保することとしたのです。行孝は水道の建設費用を調達するため、祖父細川三斎の遺物である唐物茶入「利休尻ふくら」、「俊成卿定家卿両筆懐紙」などを細川本家に献上し、寛文4年(1664)12月までにすべての工事が完了して、宇土の城下は轟泉水道により潤されることとなりました。

水道敷設から100年ほど経過した5代藩主興文の代になる頃には、轟泉水道は経年劣化や地震による樋管の破損等による水の汚濁や枯渇などが見られ、改修が必要な状況となりました。当時、藩財政は極めて窮乏していましたが、興文は富講などにより資金を確保し、轟泉水道の改修に着手します。水道の耐久性を高め、以降の補修が容易になるよう、瓦質管から馬門石製の樋管に切り替える大工事でした。その後、轟泉水道は大切に守り伝えられ、今もなお約90戸の家庭に上水を供給し続けています。

本展覧会では、現存するわが国現役最古の上水道「轟泉水道」を紹介するとともに、その水により育まれた宇土の歴史・文化をひもといてゆくものです。



《細川行孝肖像》

(宇土市教育委員会所蔵)

《轟水源》



《蕉夢庵景勝図画詩文合巻》(宇土市教育委員会所蔵)



《馬門石樋管》(宇土市所蔵)

【里山ギャラリー歴史・文化講座3】

宇土細川家と轟泉水道

講師：宇土市民会館館長 高木 恭二氏

日時：2019年7月20日(土) 13:30～15:00

※事前申込制(受付期間 6月17日～7月12日)

TEL: 096-326-7800 FAX: 096-326-7755

ギャラリー受付でも承ります

【ギャラリートーク】

日時：2019年8月10日(土)

8月24日(土)

13:30～

※申込不要

時間までにギャラリー展示室へおいでください